

視聴覚教育

508

発行月

5月

発行

5月

編集

岡崎市AVL

編集

編

広報委員会

編

現職教育委員会視聴覚教育部

「教育文化賞」を賞

去る十一月二十四日、意美丘小学校において第七回教育文化

賞授賞式が行われた。岡崎市現職教育委員会視聴覚部は、団体

の部で、「こと受賞の栄に輝いた。

昭和二十九年、「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」設立以後、

長年にわたって視聴覚教育の推進にあたり、てきた功績が、ここ

に認められ今回の受賞となった。これまで築きあげていただいた

先輩の方々の「苦労がようやく実ったわけである。

この授賞を機会に今後一層、視聴

覚を中心として、充実した活動を展

開していきたいと志している。



加藤 中心彦(先生(美山中))

日本放送教育協会賞

第十八回、学校放送教育賞の論文募集に、本年度も岡崎市から

十三名の応募があり、そのうち半数近い六名の論文が入賞した。

全国的にみて高い水準にあることが実証された。

◎ 日本放送教育協会賞 加藤 中心彦(美山中)

◎ 奨励賞・鈴木 松三(連尺小)・青丘中茶室部

佳作・白井 正壮(愛宕小)・稲葉 浩之(細川小)

・永谷 達彦・鈴木 欽也(戒北中)

「この喜びを分かち合いたい」 — 加藤 中心彦 —

NHKの番組を視聴させて、五丘になるので、この区切りの

よい時期にと思って、実践をまとめたものが、入賞できようか

しいというよりは、とまどっているのが、実感に近い心境です。

これも一重に、英語部、視聴覚部の先輩のよきリードがあ

ってこそです。いや、忘れてならないのは、私の受け持つ生徒

の反応でした。参加するところから始まり、継続することから

カが生まれる。この言葉を肝に

銘じて、これからも実践したい。



放送教育研究会大会全国大会

去る十一月八日(水)〜九日(金)の三日間、岐阜市を中心に第三

十回、放送教育研究会全国大会が開かれた。

大会テーマ「豊かな人間性をはぐくみ、放送の特性を生かした学習の成立を目ざして、教師の果敢的な手立てを確立しよう」

を掲げて、小学校二校、中学校四校で発表の意見がかわされた。

岡崎からは、助言者、提言者、パネラーを含めて、十五名が参加をした。

全国放送教育研究会に参加して

後藤哲人(福小)

目を大きく開き、食い入るように見る顔と顔

機関銃のように字を書き、

視聴ノートに二杯ならんだ文字

こんな様子のテレビを使った社会科の授業を見た時、日頃なんの気なしに、生番組を児童に見せて授業している私には別世界のようであった。

この機会に、一層、研修を積んでいきたい。



自作TP作品

入選者45名

第一回岡崎市自作TP作品募集は去る十月十五日

に締切られた。作品は八十九点(小学校六十五・中学

校二十四)の多きに達した。そのうち、小学校三十三点

中学校十二点が入選と決定し、十月二十日、美川中

学校での視聴覚教育研修会の席で表彰された。

この作品募集は、市の特別予算でTP作成機が各

学校に設置された今年度で三十五校の機会に、その活

用とTP作品の効果的効果を高めるために行われたのである。

新仕の先生の応募も多数あり、六名の先生が入賞され

たことは喜ばしいことである。今後の活躍を期待したい。なお、

多く入賞した学校もあり、やればできることを示したよい例と思

われる。今後、前向きで参加していきたい。

視聴覚教育研修会 美川中学校が開催

授業研究を中心とする視聴覚教育研修会は、去る十月二十日に

開催された。この会は、来年度、視聴覚教育で研究発表を予定し

ている美川中学校の中間発表をかねて行われたもので社会・理科

道徳・特活の公開授業、テレビタイムの特設授業、分科会・全

体云々豊富な内容で盛会のうちに終る事ができた。